㈱日本エネルギー
特別企画

災害時 LPガスで「発電」

専用機器 導入の薦め

「災害時に強い」エネルギーとして注目を集めるエルピーガス（LPガス）。停電時でも専用機器で発電ができ、自宅等で電気が使えるようになる。今回は創業57年の地元密着型企業「株式会社日本エネルギー」（左入町）が手掛ける「家庭用」「施設用」のガス発電導入ケースを紹介する。

防災の新提案 「栓」に接続 「いつも」の電力

「ガス発電機があれば家庭のLPガスを使って、電気を使うことができるようになります。災害時に役立ちます」「停電してもスイッチを切り替えればガスが発電をしてくれるようになります」。そう話すのは同社で40年近くガスを取り扱うベテラン、松島光明部長。同社に実際設置されているガス発電システムを紹介してくれた。

まずは発電機。防災向けとして最近知られるのが「低圧LPガス発電機」だ。日頃使っている家庭のガス栓からつなげられるものとガスボンベ専用のものがある。

災害などで停電した場合、この発電機と分電盤につながる受電口をケーブルで、ガス栓を専用のホースでそれぞれつなげる（ボンベをいれる）＝上枠内写真①②。発電機を稼働させたら＝同③、分電盤を開け、スイッチを「電力発電」（東京電力側）から「ガス発電」（非常用発電側）に切り替える＝同④。するとスムーズに発電がはじまる。「パワーのある発電機（1500VA）なら家庭のコンセントと同じ出力になります。照明、電子レンジ、冷蔵庫など様々な電気機器を幅広く利用することができますよ」（松島さん）

「ガソリン」との違い

利用にはガス発電機の購入と分電盤等の簡単な工事が必要となる。費用は合計で50万円程度（工事費は家庭の配管等の状況により異なる）。松島さんによると最近、市内で高齢の人が関心を持ちこのシステムを取り入れたという。都市ガス利用家庭からも、「防災用として検討したい」と問い合わせがあったそうだ。

なお、ホームセンター等でよく見られる「ガソリン使用」の発電機との大きな違いは、「燃料の劣化」。ガソリンは機器に入れたままだと半年～1年で使えなくなるが、ガスは劣化の心配がない。また、災害時ガソリンの入手が困難になる可能性もあるが、ガス発電機は家庭用のLPガスに直接つないで利用できるので安心だ。

本紙特典あり

LPガスはボンベなどの容器で個別供給されているため、それがあるだけで「家のとなりに保存庫を置いているような状態」ともいう。

停電時はわずかな灯りにも有難みを感じるもの。「少しでも関心のある方は一度話を聞いてください」と松島さん。問い合わせは同社☎0120・60・8111へ。＊本紙特典として、「タウンニュースを見た」と伝えるとガス発電機の導入（機器購入＋工事）が10％オフに。2016年12月末までにご成約の方対象

16号沿いのビル 「日エネ」とは

八王子市民なら一度はあの国道16号沿いの「白と青のビル」＝写真＝を見たことがあるはず!?

この建物は1951年創業、市内を代表する液化石油ガス（LPガス）販売企業「株式会社日本エネルギー」（左入町700の1／清水良真社長）の本社ビルだ。

「日エネ」の愛称で親しまれる同社はLPガスの卸売り、小売りを中心に住宅設備機器などの販売も行う。都内はもちろん、神奈川、埼玉、山梨と、1都3県にわたり120の特約店を持っている。

2014年には、美山町にある同社・MIYAMAブルーガスセンター（LPガス充填工場）が災害時にLPガスの安定供給を行うための「災害時対応中核充填所」として国から指定を受けた。緊急時、優先的に国家備蓄を預かり各自治体などに分配する役割を担っており自家発電設備や衛星電話も設置している。この充填所は都内で11カ所のみ。

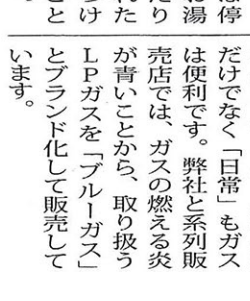
記者 なるほど。個別供給のLPガスは「災害用の備蓄」と考えることもできますね。

社長 LPガスは各家庭にボンベを置くものです。災害時に我々のような専門スタッフが巡回し安全確認の上、開栓すれば使えるようになります。都市ガスの家庭にも「備蓄用」としてボンベの導入を薦めたいです。

記者 災害時に頼りになりそうですね。

社長 もちろん、「非常時」だけでなく「日常」もガスは便利です。弊社と系列販売店では、ガスの燃える炎が青いことから、取り扱うLPガスを「ブルーガス」とブランド化して販売しています。

災害対策 清水社長にきく なぜガスが強いのか



日本エネルギー・清水良真社長＝写真＝に、災害時における「LPガスの強さ」などを聞いてみた。

記者 LPガスが見直されています。

清水社長（以下社長） 大きな災害が起きた際、ライフラインの中でもっとも復旧が早いのが電力でその次がLPガスです。「災害に強い」と言われます。地下を通る都市ガスはトラブルが起きた際、その場所を特定して修復するまで時間が必要になります。

記者 しかし停電した状態ではガスを使えても何もできないですよね？

社長 LPガスにつなげられる発電機があります。これを使えば停電時でもお湯をわかしたり暖房をいれたり照明をつけたりすることができます。

災害時に役立つガス発電機の使用法

家庭用

低圧LPガス発電機を紹介する日本エネルギーの松島さん

ご存じですか？「災害用バルク」

ガスを貯蓄 炊き出し、給湯、暖房可能に

市内サ住高に設置

災害対応型LPガスバルクとは、エネルギー（ガス）の大きな保存庫のようなもの。巨大な貯槽に50kgボンベ20本分のガスを貯めておくことができ、災害時、ライフラインが寸断された状況でも、安全かつ迅速にガスの供給を行える。

バルクに発電機を接続すれば「炊き出し」「給湯」「暖房」「照明」などが可能になる。この春、西寺方町に開所したサービス付き高齢者向け住宅「サクラタウン西寺方」（4階建て）はこの災害用バルクを導入している。

「1カ月生活できる」

「万が一の災害時も1、2階部分のみなら1カ月は普通に生活ができるほどのエネルギーがあるそうです」と、施設管理者の橋本絵都子さん。地域の避難所・支援所として活躍できる可能性もある。非常用の備えが行き届いている施設として、利用者からは「安心」と喜んでもらえているそうだ。

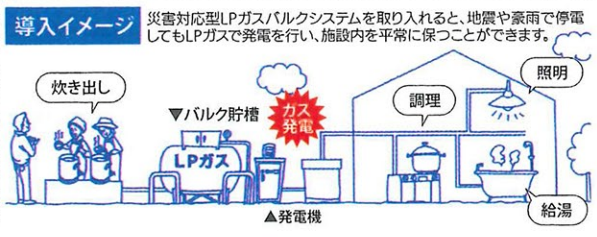
日本エネルギー・松島さんは「市内の病院や学校、『道の駅八王子滝山』などの商業施設でも設置が増えています。企業やマンションなども導入が可能です。国から補助金を受けられるケースもありますので、まずは相談ください」と話している。問い合わせは以下の連絡先へ。

施設用

バルク貯槽を紹介するサクラタウンの橋本さん

保管されているガス発電機

導入イメージ 災害対応型LPガスバルクシステムを取り入れると、地震や豪雨で停電してもLPガスで発電を行い、施設内を平常に保つことができます。



防災用ガス発電システム導入例（あくまで一例です）

ガス発電機	400,000円
工事費※	100,000円
小計	500,000円（税込540,000円）
本紙特典※	-50,000円
合計	450,000円（税込486,000円）

※工事費はご家庭の配管等の状況により異なります
※本紙特典は2016年12月末までに成約の方が対象です

東日本大震災では…

「どこにでも運べてすぐに使える」利便性の良さから、LPガスは避難所の炊き出しなどで活躍した。また、電気・水道・都市ガスなど、寸断されたライフラインの中で、「もっとも早く復旧した」という実例も報告されている。

株式会社 日本エネルギー
☎0120-60-8111
www.nihonenergy.jp ☎042-691-1107 八王子市左入町700番地の1

同社キャラ「ニチエネボーイ」

ガス発電機があれば家庭のLPガスを使って、電気を使うことができるようになります。災害時（停電時）に役立ちます